

2010年度事業報告書

(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. パソコン講習会事業

札幌チャレンジドのパソコン講習会場でのパソコン講習は、全体としては受講者が減少している。一方で、内容によっては、受講申し込みの多い講座もあることから潜在的な受講希望者は継続して存在すると考えられる。

2007年度から始まった中国帰国者向けのパソコン講習は、2010年度も継続して順調に開催している。

総計すると2010年度は年間延べ約2,000人程度の受講者にパソコン講習を実施した。

2. 視覚障害者支援事業

視覚障害者へのパソコン講習会は、札幌チャレンジドの事務所での講習会を継続して実施している。週に2コマ程度の講習会を開催している。新規の受講者が徐々に増えている。

2010年度も、NPO法人スパンとの協働事業として、「遠隔講習事業」に取り組んだ。

3. 重度障害者支援事業

2010年度も継続して重度障害者の意志伝達支援に取り組んでおり、約40人への支援を行った。病院、関係機関からの問い合わせ件数が着実に増加しており、札幌チャレンジドが重度障害者の意志伝達支援に取り組んでいることが関係者の間に周知されつつあり、その役割が増している。この期待に応えるための体制作りが課題である。

4. 就労支援事業

2006年10月から就労継続支援サービス事業の事業者となった。この事業では、サービスの利用者（仕事を求めているチャレンジド）に対して、仕事の提供や教育訓練を実施することで給付金が支給される。事業会計を区分する必要があるため、就労支援については、就労継続支援サービス事業の対象事業と、対象外の支援事業に分けて報告する。

(1) 就労継続支援サービス（A型）事業

2010年度は、雇用契約者17名、非雇用契約者23名の合計40名が就労継続支援

サービス利用者として仕事に従事した。

就労継続支援サービス利用者以外のチャレンジドを含めた就労支援した全チャレンジドは 71 名、一年間の給与支払総額は、23,630 千円。2009 年度より約 2,450 千円の増額となった。毎年、確実に増加している。

全チャレンジドへの支払い総額（A型以外含む）

2010 年度：23,630 千円（前年比 12%増）

2009 年度：21,181 千円

2008 年度：17,560 千円

2007 年度：13,023 千円

A型チャレンジドへの支払い総額

2010 年度：20,504 千円（前年比 14%増）

2009 年度：17,915 千円

2008 年度：15,621 千円

2007 年度：10,577 千円

A型チャレンジドの一人平均月額賃金（単純平均）

2010 年度：55,269 円

2009 年度：55,295 円

2008 年度：51,319 円

2007 年度：39,175 円

受注業務の種類が増えていることで、仕事の選択の幅が広がり、より自分の適性に合った仕事を選べる可能性が広がっている。利用希望者も増えており、新たな業務の受注に向けて営業活動の強化と生活面での支援の充実が課題となっている。2010 年度も、就労継続支援サービス利用者の中で 4 名が企業に就職した。いずれも札幌チャレンジドでの就労経験が就職に大きく寄与したものである。

（2） 就労継続支援サービス事業以外の就労支援事業

就労継続支援サービスの利用者以外を対象に、能力に見合った適切な仕事がある場合には、就労支援を行っている。不定期的な仕事で札幌チャレンジドと関わることから始まり、その後、定期的な業務を担当して、就労継続支援サービスの利用者になる場合もある。

仕事を希望するチャレンジドが登録する就労支援制度の就労メーリングリストを運営しており 80 名が登録している。

(3) チャレンジドが従事する主な業務内容

- ① パソコン講習講師
- ② キーワード付与業務
- ③ 写真加工・切抜き業務
- ④ 字幕製作業務
- ⑤ ネット上における監視業務（掲示板など）
- ⑥ カタログ掲載商品のデータ入力・画像編集業務
- ⑦ アンケートデータ入力業務
- ⑧ リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）
- ⑨ データ収集業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって収集する業務）
- ⑩ ホームページ制作業務
- ⑪ ホームページ更新・修正業務
- ⑫ アフィリエイト関連業務（商用アフィリエイトのための補助業務）
- ⑬ 商用イラスト作成業務
- ⑭ WEBモニタリング業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって調べて報告する業務）
- ⑮ テープ起こし
- ⑯ 事務局業務

(4) 主な継続業務受注企業

- ① ㈱データクラフト
- ② ㈱デーシーアーカーイブズ
- ③ ㈱ディーボ
- ④ ㈱カンバス
- ⑤ 有限会社未来検索ブラジル（㈱ニワンゴ）
- ⑥ ㈱セールスフォース・ドットコム
- ⑦ 有限会社エイドパーティ
- ⑧ 日本環境システム株式会社
- ⑨ ㈱TPG（ゴルフモンスター）
- ⑩ 財団法人日本障害者リハビリテーション協会

(5) IT活用等による在宅就業支援事業

平成22年度から始まった社団法人北海道総合研究調査会（HIT）からの委託事業を継続して実施した。本事業では、在宅就労に向けた遠隔講習を受講しているチャレンジドへのサポートを行っており、札幌チャレンジドの経験を活かせる事業である。

5. 行政からの主な受託事業

(1) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業

① パソコン講習会

札幌市身体障害者福祉センターにおいて、身体及び知的、視覚、聴覚、重複、盲ろう障害別に、32回の講習会を行った。

② パソコンボランティア派遣

2010年度もパソコンボランティアの派遣を順調に行った。

③ 相談業務

電話570件、メール22件、来所・FAX222件、その他65件の相談を受けた。ほぼ前年同様の件数である。

(2) 札幌市コールセンター就労促進ネットワーク会議事業

2008年度から継続して2010年度もネットワーク会議を開催した。

障害者を対象としたコールセンター見学会を2回開催した。

6. 子育て！北海道事業

2006年12月に開設した子育て支援のポータルサイト「子育て！北海道」の運営に関する事業。NPO法人北海道子育て支援ワーカーズと協働で運営している。

サイトのアクセス数は、月間約12,000ページビュー程度で一定数のアクセスが継続している。相変わらず「発達障害サポートコーナー」のアクセス数が多い。また、イベント情報への投稿依頼も継続した依頼があり、利用者にも喜ばれている。

収益性の確保が課題である。

7. NTTコムウェア北海道㈱の社会貢献事業

2007年度からNTTコムウェア北海道㈱が社会貢献活動として実施している事業。道内の児童養護施設の子どもたちや障がいのある子どもたちを札幌ドームで開催される北海道日本ハムファイターズ戦に招待している。同社が年間シートを10席購入し、同社のボランティア1名、札幌チャレンジドのボランティア1名、施設の子どもたち8名と一緒に観戦する。札幌チャレンジドは、事務局業務を担当している。2010年度は、52試合に約400名が参加した。

昨年同様、参加した子どもたちやボランティアから感謝の声が寄せられており、非常にやりがいのある楽しい事業となっている。札幌チャレンジドとしては、NTTコムウェア北海道㈱の社会貢献活動を広く伝えることで感謝の気持ちを現したい。なお、本事業は2010年度で終了した。

8. その他

(1) 福祉医療機構助成事業

「発達障害者を対象とした就労支援講習事業」を実施し、受講者8名中3名の就職を実現した。発達障害者への就職支援のノウハウを構築することができた。

(2) 日本財団助成金事業

「障害者支援設備（就労継続A）の機器設備」事業により、ノートパソコン11台（講習会場10台、就労監督者用1台）、デスクトップパソコン6台、Webページ、グラフィックス制作ソフト一式、Webページ、グラフィックス制作用フォント（書体）1点の設備を整備した。とても貴重な設備を取得することができたが、引き続き、他の老朽化した設備の更新が課題である。

(3) 就職支援活動

2010年度は、就職支援活動によって11名の就職をサポートした。就職支援へのニーズは年々高まっており、就職支援の本格実施に向けた検討を始めた。

2011年9月をメドに就労移行支援サービスを開始し、多機能事業所として運営するべく準備を進めている。

(4) 広報普及・情報発信活動

札チャレ通信（会報誌）の発行（年間11回）。毎回、約1,500部。

2010年7月号より原則、メール配信に変更した。

札チャレ通信をテープに朗読した視覚障害者向けの「声チャレ」の発送。

2010年6月にホームページを大幅にリニューアルし、情報発信を強化した。とてもわかりやすくなったと高い評価を得ている。

視覚プロジェクトのメールマガジン「声チャレ通信」の発行。

新聞社への情報提供による記事掲載。

2011年1月17日の北海道新聞夕刊の一面トップに、札幌チャレンジの重度障害者支援への取り組みが掲載された。

(5) 10周年記念事業

6月23日の北海道新聞朝刊に、10年間の感謝の気持ちを込めて、10周年記念感謝広告を一面広告で掲載した。104名から131万円の寄付をいただき広告掲載を実現することができた。各方面からの反響も大きく、貴重な広告掲載となった。

6月27日に京王プラザホテルで「10周年感謝祭」を実施した。企業、大学、NPO、札チャレ受講者、ボランティア、就労メンバー、札チャレ卒業生など130名が参加した。10年の区切りとなる良い会を開催することができた。

9. 総括

2010年度、札幌チャレンジドは10周年を迎えた。ヤル気のある数名が集まり、他には何も無いところから活動を始め、10年間で年間事業規模約7,000万円の事業型NPOとなった。10年間に数えきれない多くの方々のご支援をいただきながら年々、活動の幅を広げて成長してきた。事業規模もほぼ一定化し、10年間で一つのスタイルを構築したと言える。

2010年度も引き続き就労支援が拡大しており、チャレンジドへの支払い対価が前年度比12%増えたことは大きな成果である。就労支援に関わる事務局の仕事は、チャレンジドが従事する仕事を作り、安心して働くことのできる環境を整えることである。チャレンジドが札幌チャレンジドに寄せる期待の大きさに比例して、事務局の責務が重くなっている。

また活動を継続していく中でパソコンの老朽化が目立ってくる。2010年度は日本財団の助成金により新しいパソコンを整備できたことはとても意義深い。しかし、まだ古いパソコンが多く、引き続き、様々な助成金への申請を行う必要がある。この設備更新は札幌チャレンジドの永遠の課題である。

最後に、組織が継続して維持、発展していくためには、常に組織の最適化、役割分担の見直しが重要である。次の10年に向けて、まずはこれからの数年間を最も効果的、効率的且つより品質の高い事業運営ができる組織体制の構築が最大の課題である。その課題に向けて模索を始めたのも2010年度であった。その具体的なトライは、2011年度から始まる。札幌チャレンジドが持続可能な組織としてさらに社会の役に立つ存在であるために、それぞれの役割を担っていきたいと考えている。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上